

学部固有科目の目的と特徴

複雑化した現代社会では、国際的に通用する知識を身につけることが活躍の一步といえるでしょう。現代社会が刻々と変貌を遂げている中で、新しい知識を正しくかつ展望を持って修得することがますます必要であり、それを発展させていく能力も要求されています。こうした中で、経済学部では、経済学の専門的な知識だけでなく社会的に求められる一般的な知識や技術をバランス良く備えた社会人として、国際社会に通用する人材を育成する事を目標としています。これらの目標を達成するため、経済学部のカリキュラムでは、基礎科目から基幹科目、展開科目へと段階的かつ系統的な修得ができるよう配慮され、各学生の目的に合うよう、3つの履修モデルを提示して、それぞれの効果的な学修を促しています。

以下を参考に、主体的に学修計画を立て自己の目標に到達できるよう努めてください。

専門科目とジェネリック・スキル科目

経済学部の学部固有科目は、「専門科目」と「ジェネリック・スキル科目」から成ります。経済の専門知識と理論を学修するのが「専門科目」であるのに対して、情報リテラシー、日本語表現、語学力、海外経験、さらに社会人に求められる基礎的なスキルを身につけるEXP(エグゼクティブ・プログラム)からなるのが「ジェネリック・スキル科目」です。ジェネリック・スキル科目は、創造的で柔軟性に富んだ思考や自立性、チームワーク力、コミュニケーション力、論理的思考力、リーダーシップ、自己管理能力など、いずれも社会で求められる基本的な能力を育てるための科目で、修得した経済学の専門知識・理論を具体的に生かすための汎用な能力を養うために、経済学部が新たに導入したものです。

段階的履修と系統的履修

経済学部のカリキュラムでは、経済の基礎科目の充実を図り、経済の仕組みを正しく理解したうえで、基礎から、基幹、展開と段階的に専門性を積み上げる体系的なカリキュラムとなっています。また、個々の科目は相互の関連性により「共通科目」と「経済分析」「政策」「国際経済」の3つの科目群に分けられ、系統的な履修ができるようになっています。

1年次においては経済学の学修を始める上で必要とされる科目を修得します。「入門ゼミ」「情報リテラシー」「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」「日本語表現」は必修科目としてすべての学生が学修し、その他に1年次において学修しておくことが望ましい科目が選択必修科目として配当されています。2年次では、経済学の中心的な授業を集めた基幹科目のなかから選択必修科目として20単位以上の履修をします。3・4年次では、「経済分析」「政策」「国際経済」のそれぞれに関連する展開科目を中心に選択科目を履修します。また、2年次秋学期からは少人数で個別の専門テーマを学修する演習I・II・IIIが選択できます。

これらは「履修モデル」を参考に、各自の将来の目的と興味に沿った専門科目を選択して学修することになります。

履修モデル

経済学部における学部固有科目のカリキュラムでは3つの履修モデル「経済分析モデル」「政策モデル」「国際経済モデル」を提示して、体系的・整合的な学修ができるように編成されています。これらのモデルは、それぞれの専門的関心や将来の目標にあわせて、1年次から4年次まで専門科目とジェネリック・スキル科目をどのように学修すればよいかを、それぞれ例として提示するものです。これらの修得方法を参考にしながら、効果的な学修をしてください。

ただし、この履修モデルはあくまでも参考モデルであり、各自の勉学の興味に応じて、各履修モデルに記載されていない科目や他学部開講科目を取り入れて履修計画を立てることも可能です。

演習科目について

演習は大学教育において最も重要視されている科目の一つです。演習では履修モデルで修得する講義科目とともに、少人数で個別の専門テーマを学習することにより、より深い経済学の修得が可能になります。そこでは学生自身が意見を述べ合い、学生が中心となって議論を重ねることにより必ず実りあるものとなっていきます。各自が最も関心のあるテーマを選び4年間の学習の集大成として独自の論文を作成することもできます。

学修目標・修得モデル

経済学部では学修の目安となる修得モデルを設定しています。下表を参考にしながら自身の修得状況をしっかりと把握し、4年間で卒業要件を満たすよう計画的な学修を心がけてください。また、目標GPA値を参考に学修の質的向上を目指すようにしましょう。

学年	セメスター	履修登録制限 単位数	単位修得 モデル	目標GPA
1年	第1セメスター	22単位	15単位	各セメスター 2.5以上
	第2セメスター	22単位	34単位	
2年	第3セメスター	22単位	52単位	
	第4セメスター	22単位	70単位	
3年	第5セメスター	22単位	88単位	
	第6セメスター	22単位	106単位	
4年	第7セメスター	24単位	116単位	
	第8セメスター	24単位	124単位	

経済分析モデル

マクロ経済学やミクロ経済学など経済理論は経済の諸現象を抽象的・理論的な枠組みで理解する大切な道具のひとつですが、同時に実際の経済で何が起きたか、生じているかを的確に理解する能力を養うことも重要です。私たちの周りには、たくさんの経済動向を示す情報があり、多くは経済統計データとして提示されています。これらの情報の収集、解析、判断について一定の方法があり、これらを修得しておくことは実社会で生活する上でひとつのアドバンテージとなります。

本モデルは、経済各分野の具体的なトピックスに共通する基本的な経済理論と、経済学史、経済思想史など歴史的理解や経済データの観察、分析に必要な科目をバランスよく学びたい学生のために提案されたものです。マクロ経済学、ミクロ経済学、財政学、金融論、国際経済学という経済学のコアとなる科目を中心に、経済データを通じた現実経済の理解を深めるための統計学、計量経済学、経済データ分析などが用意されています。

1年次は、基礎科目によって、経済学の土台を作り(専門科目)、また大学におけるスタディ・スキルを習得します(ジェネリック・スキル科目)。専門科目では、「入門ゼミ」「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」の必修科目に加えて、「経済数学I」、「データから見た経済」などの選択必修の科目から5科目を学修します。ジェネリック・スキル科目では、「日本語表現」「情報リテラシー」の必修科目と語

学力科目の中の1科目を学修します。以上、学部固有科目において22単位を修得します。

2年次は、基幹科目によって、経済学の理論・政策・統計のコアとなる科目を学びます。専門科目では、共通・経済分析科目群の中から選択必修8～10科目を学修します。加えて、秋学期には、自分が興味を持っている特定分野の研究テーマを4年次まで継続的に研究するために、「演習I」を履修します。また、ジェネリック・スキル科目では、「ロジカルシンキング」「戦略思考とコンセプト思考」によって、専門科目で得た知識をビジネスや政策遂行に活かす手法を身につけます。以上、学部固有科目において26単位を修得します。

3・4年次は、展開科目によって、自分の目標や関心に応じて各分野の政策をより専門的に学びます。専門科目では、経済分析科目群の中から8科目を学修すると同時に、「演習Ⅱ・Ⅲ」において自分のテーマに沿った研究をさらに深めていきます。ジェネリック・スキル科目では、2年次の「戦略思考とコンセプト思考」の発展科目である「プレゼンテーションとコミュニケーション」、および、就職支援科目である「キャリア・マネジメントI・II」「インターンシップI」を履修します。(公務員等、民間企業以外への就職を希望している人は、「キャリア・マネジメントI・II」の代わりに法律科目等を履修しても良いでしょう。)以上、学部固有科目において32単位を修得します。

(予想される進路)

日々の経済動向を的確に把握できる能力が求められるシンクタンク、銀行・証券をはじめとする金融機関や各産業界のリーディング企業、公務員など。

	1年 基礎科目	2年 基幹科目	3・4年 展開科目	単位数
専門科目	マクロ経済学入門(2) ミクロ経済学入門(2)	マクロ経済学(4) ミクロ経済学(4)	農業経済学(2) 社会思想史(2)	50
	経済数学I(2) 経済数学II(2) データから見た経済(2) 日本経済の仕組み(2) 統計学の基礎(2)	経済数学III(2) 経済数学IV(2) 財政学I(2) 金融論I(2) 国際経済学(2) 英書講読(2) 計量経済学I(2) 統計学(2) 経済学史I(2) 経済データ分析I・II(各2) 産業組織論I(2)	保険論(2) 情報と不確実性の経済学(2) 計量経済学II(2) 経済統計論(2) 産業連関分析(2) 産業組織論II(2) 経済成長論(2) ゲーム理論(2) 交通経済学(2) 経済学史II(2)	
	〈上記科目より20単位以上〉	〈上記科目より16単位以上〉		
	入門ゼミ(2)	演習I(2)	演習II(4) 演習III(4)	12
ジェネリック スキル科目	日本語表現(2) 情報リテラシー(2)	〈EXP〉 ロジカルシンキング(2) 戦略思考とコンセプト思考(2)	〈EXP〉 プレゼンテーションとコミュニケーション(2) キャリア・マネジメントI(2) キャリア・マネジメントII(2) インターンシップI(2)	18
	「語学力」科目の中から2単位			
単位数	22	26	32	80

注1 ■■■ 必修科目

注2 ■■■■■ 基礎科目の選択必修科目

注3 ■■■■■ 基幹科目の選択必修科目

政策モデル

政府は、直接的な経済活動を行うと同時に、家計や企業の経済活動の舵取りをするための間接的な活動を行っています。これらの政府の活動が経済政策であり、金融危機、少子化、社会保障改革など、今の日本経済が直面している課題は政策の果たすべき役割のウェイトが高いものばかりです。

本モデルは、「経済のあるべき姿とは何か?」「それを実現するためにはどのような政策が必要とされるのか?」「実際に政府はどのような政策を行っていて、それはどのように評価できるのか?」という問題意識の下で、政策的な観点から経済学を学びたい学生のために提案されたものです。財政・金融などの伝統的分野、環境・社会保障・教育などの今日的課題を含む分野、文化・メディアなどの新しい分野などにおける多くの科目が用意されていますので、各自の興味に基づいて履修計画を立てることが可能です。

1年次は、基礎科目によって、経済学の土台を作り(専門科目)、また大学におけるスタディ・スキルを習得します(ジェネリック・スキル科目)。

専門科目では、「入門ゼミ」「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」の必修科目に加えて、以下に挙げた選択必修の5科目を学修します。ジェネリック・スキル科目では、「日本語表現」「情報リテラシー」の必修科目と語学力科目の中の1科目を学修します。以上、学部固

有科目において22単位を修得します。

2年次は、基幹科目によって、経済学と政策のコアとなる科目を学びます。専門科目では、共通・政策科目群の中から選択必修8~10科目を学修します。加えて、秋学期には、自分が興味を持っている特定分野の政策を4年次まで継続的に研究するために、「演習I」を履修します。また、ジェネリック・スキル科目では、「ロジカルシンキング」「戦略思考とコンセプト思考」によって、専門科目で得た知識をビジネスや政策遂行に活かす手法を身につけます。以上、学部固有科目において26単位を修得します。

3・4年次は、展開科目によって、自分の目標や関心に応じて各分野の政策をより専門的に学びます。専門科目では、政策科目群の中から8科目を学修すると同時に、「演習Ⅱ・Ⅲ」において自分のテーマに沿った研究をさらに深めていきます。ジェネリック・スキル科目では、2年次の「戦略思考とコンセプト思考」の発展科目である「プレゼンテーションとコミュニケーション」、および、就職支援科目である「キャリア・マネジメントⅠ・Ⅱ」「インターンシップ」を履修します。(公務員等、民間企業以外への就職を希望している人は、「キャリア・マネジメントⅠ・Ⅱ」の代わりに法律科目等を履修しても良いでしょう。)

以上、学部固有科目において32単位を修得します。

(予想される進路)

政策立案および実施主体である公務員、政策に関する知識が必要となる金融機関、公認会計士・税理士、教員など。

	1年 基礎科目	2年 基幹科目	3・4年 展開科目	単位数	
1	専門科目	マクロ経済学入門(2)	社会保障論Ⅱ(2)	50	
2		ミクロ経済学入門(2)	医療経済学(2)		
3		経済数学Ⅰ(2)	金融政策(2)		
4		経済数学Ⅱ(2)	環境経済学Ⅱ(2)		
5		データから見た経済(2)	金融論Ⅱ(2)		
6		日本経済の仕組み(2)	銀行証券論(2)		
7		統計学の基礎(2)	公共経済学(2)		
8			文化経済学(2)		
9			財政政策(2)		
10		中小企業論(2)	12		
11		労働経済学Ⅱ(2)			
12		法と経済学(2)			
13		都市経済学(2)	教育経済学(2)		
14		〈上記科目より20単位以上〉	財政学Ⅱ(2)		
15			〈上記科目より16単位以上〉		
16	入門ゼミ(2)	演習Ⅰ(2)	演習Ⅱ(4) 演習Ⅲ(4)		
17	日本語表現(2)	〈EXP〉	〈EXP〉	18	
18	情報リテラシー(2)	ロジカルシンキング(2)	プレゼンテーションとコミュニケーション(2)		
19	「語学力」科目の中から2単位	戦略思考とコンセプト思考(2)	キャリア・マネジメントⅠ(2)		
20			キャリア・マネジメントⅡ(2)		
21			インターンシップⅠ(2)		
22	単位数	22	26	32	80

注1 必修科目

注2 基礎科目の選択必修科目

注3 基幹科目の選択必修科目

国際経済モデル

日本の経済はいうまでもなく外国の経済と密接な関係を持っており、世界経済に大きく依存しつつ、今日の経済的な繁栄を築いてきました。そして近年では、日本経済の動向が世界の経済にかなりの影響力を及ぼすまでになってきています。グローバル化が進化した今日では、国際間での財・サービスや資本の取引も飛躍的に増大し、その中で日本経済が果たすべき役割も極めて重要なものとなってきています。国際社会の一員としての自覚をもって経済問題に対処するために、正確かつ論理的な国際経済の知識が今ほど求められている時代はありません。

本モデルは、国際的な視野に立って経済学を体系的に学びたい学生のために提案されたものです。国際経済学関連科目には、大別すると①ミクロ経済学の応用にあたる貿易理論、貿易政策、国際要素移動論など、②マクロ経済学の応用に当たる国際マクロ経済学、国際金融論など、③発展途上国の経済問題を扱う開発経済学、④日本経済を含む各国の経済事情およびその歴史、があります。中京大学経済学部ではこれらすべての分野を網羅的に開講しており、国際経済学に対する学生のニーズに完全に対応できる体制となっています。

1年次は、基礎科目によって、経済学の土台を作り(専門科目)、また大学におけるスタディ・スキルを修得します(ジェネリック・スキル科目)。専門科目では、「入門ゼミ」「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」の必修科目に加えて、選択必修の5科目を学修します。

ジェネリック・スキル科目では、必修科目の「日本語表現」「情報リテラシー」に加え、国際経済を学ぼうとする学生は、「Fundamentals of Economic Analysis」「ビジネス英語」「時事英語」等の語学力科目を履修することが望まれます。以上、学部固有科目において22単位を修得します。

2年次は、基幹科目によって、経済学と国際経済分野のコアとなる科目を学びます。専門科目では、共通・国際経済科目群の中から選択必修8~10科目を学修します。加えて、秋学期には、自分が興味を持っている特定分野研究テーマを4年次まで継続的に研究するために、「演習I」を履修します。また、ジェネリック・スキル科目では、「ロジカルシンキング」「戦略思考とコンセプト思考」によって、専門科目で得た知識をビジネスや政策遂行に活かす手法を身につけます。以上、学部固有科目において28単位を修得します。

3・4年次は、展開科目によって、自分の目標や関心に応じてより専門的に学びます。専門科目では、国際経済科目群の中から7科目を学修すると同時に、「演習II・III」において自分のテーマに沿った研究をさらに深めていきます。ジェネリック・スキル科目では、2年次の「戦略思考とコンセプト思考」の発展科目である「プレゼンテーションとコミュニケーション」、および、就職支援科目である「キャリア・マネジメントI・II」「インターンシップ」を履修します。以上、学部固有科目において30単位を習得します。

(予想される進路)

世界経済の動向に敏感かつ的確に対応が求められる銀行・証券などの外資を含む各種金融機関。海外との取引が活発な商社や各産業界のリーディング企業など。

	1年 基礎科目	2年 基幹科目	3・4年 展開科目	単位数
専門科目	マクロ経済学入門(2) ミクロ経済学入門(2)	マクロ経済学(4) ミクロ経済学(4)	貿易論II 開発経済論 日本経済史II アメリカ経済論 西洋経済史II 貿易政策 国際マクロ経済学 アジア経済論 国際要素移動論 ヨーロッパ経済論 中国経済論 中部経済論	48
	経済数学I(2) 経済と経済学の歩み(2) データから見た経済(2) 日本経済の仕組み(2) 統計学の基礎(2)	財政学I(2) 金融論I(2) 国際経済学(2) 英書講読(2) 貿易論I(2) 国際金融論(2) 日本経済論(2) 西洋経済史I(2) 日本経済史I(2)	〈上記科目より14単位以上〉	
	入門ゼミ(2)	演習I(2)	演習II(4) 演習III(4)	12
ジェネリック スキル科目	日本語表現(2) 情報リテラシー(2)	〈EXP〉 ロジカルシンキング(2) 戦略思考とコンセプト思考(2) イングリッシュ・スキル(2)	〈EXP〉 プレゼンテーションとコミュニケーション(2) キャリア・マネジメントI(2) キャリア・マネジメントII(2) インターンシップI(2)	20
単位数	22	28	30	80

注1 ■■■ 必修科目

注2 基礎科目の選択必修科目

注3 □■■ 基幹科目の選択必修科目

学科目の配当学年

学部固有科目は学年配当を実施していますので、上級学年の科目を履修することはできません。ただし、上級学年は下級学年に配当されている科目を履修することができます。

必修科目

必修科目は5科目10単位を修得してください。

選択必修科目

選択必修科目の区分は次のとおりです。

- ①1年生選択必修科目 6単位以上修得してください。
 - ②2年生選択必修科目 20単位以上修得してください。
- ※なお、それぞれの区分で必要な単位を超えて修得した場合は学部固有科目の選択単位として卒業所要単位に算入されます。

選択科目

選択科目は44単位を修得してください。

マクロ経済学 ミクロ経済学

この科目は半期4単位で週2回開講します。学科目時間割表を参照し、履修登録の際には十分に注意してください。

ゼミナール(演習)

演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは選択科目です。

- ①2年生ゼミナール「演習Ⅰ」の募集説明会を2年生の4月初旬に実施します。詳細については、ALBOにて案内します。
- ②指定期間内に受講申込み手続きを行わなかった場合は履修できません。
- ③原則3年生より新規に「演習Ⅰ」を申込みことはできません。ただし、2年生において履修した「演習Ⅰ」が不合格だった場合のみ指導教員の了承を得た上で3年生において「演習Ⅰ」の再履修を認めることがあります。同時に4年生より新規に「演習Ⅱ」を申込みことはできません。ただし、2年生において「演習Ⅰ」を修得し、かつ3年生において履修した「演習Ⅱ」が不合格だった場合のみ指導教員の了承を得た上で4年生において「演習Ⅱ」の再履修を認めることがあります。
- ④2年生において「演習Ⅰ」の単位を修得しなければ、3年生において「演習Ⅱ」の履修登録はできません。また3年生において「演習Ⅱ」の単位を修得しなければ、4年生において「演習Ⅲ」の履修登録はできません。「演習Ⅱ」のみ、「演習Ⅲ」のみの履修や「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を組み合わせでの同時履修も認められません。
- ⑤2年生において「演習Ⅰ」の単位を修得したものは、3年生において極力「演習Ⅱ」の履修登録をしなければなりません。また3年生において「演習Ⅱ」単位を修得したものは、4年生において極力「演習Ⅲ」の履修登録をしなければなりません。
- ⑥原則として「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」は同一の指導教員とします。

EXP(エグゼクティブ・プログラム)

※本プログラムの科目は積み上げ方式です。

EXP(エグゼクティブ・プログラム)とは、将来の企業幹部および上級公務員となる人材に求められる実践的なスキルの修得と各業界のリーディングカンパニーへの就職をめざした実践教育プログラムです。キャリア設計とジェネリック・スキル修得を有機的に組み合わせた授業が展開されます。プログラムの詳細は下表のとおりです。

	2年		3年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
EXP エグゼクティブ プログラム	「ロジカルシンキング」	「戦略思考と コンセプト 思考」	「プレゼン テーションと コミュニ ケーション」	「キャリア・ マネジメントⅡ」
			「キャリア・ マネジメントⅠ」	

※公募型インターンシップはキャリアセンターのプログラムです。詳細はP81の「インターンシップ」を参照してください。

EXP(エグゼクティブ・プログラム)の5科目はすべて選択科目です。
①2年生春学期「ロジカルシンキング」の申込み受付は、1年次秋学期定期試験期間中にALBOで行います。3年生春学期「キャリア・マネジメントⅠ」の申込み受付は、2年次秋学期定期試験期間頃にALBOで行います。
詳細は別途ALBOにてお知らせします。

- ②指定期間内に申込み手続きをしなかった場合は履修登録できません。
- ③本プログラムの各科目には定員が設定されています。履修希望者多数の場合、「ロジカルシンキング」は1年次終了時の総修得単位数及びGPA、「キャリア・マネジメントⅠ」は2年次終了時の総修得単位数及びGPA等により選抜を行います。選抜結果は履修登録時にCUBICSで発表します。なお、申込みをした場合は原則として履修の取消ができませんので注意してください。
- ④「ロジカルシンキング」の単位を修得しなければ「戦略思考とコンセプト思考」の履修登録はできません。「戦略思考とコンセプト思考」の単位を修得しなければ「プレゼンテーションとコミュニケーション」の履修登録はできません。また、「キャリア・マネジメントⅠ」の単位を修得しなければ「キャリア・マネジメントⅡ」の履修登録はできません。

- 例) [1]「ロジカルシンキング」(2年春)未修得⇒「戦略思考とコンセプト思考」(2年秋)は履修できません。
[2]「戦略思考とコンセプト思考」(2年秋)未修得⇒「プレゼンテーションとコミュニケーション」(3年春)は履修できません。
[3]「キャリア・マネジメントⅠ」(3年春)未修得⇒「キャリア・マネジメントⅡ」(3年秋)は履修できません。

- ⑤本プログラムの各科目は履修登録制限単位に含み、学部固有科目として卒業所要単位に算入されます。

留学関連科目

「Academic Communication」、「Academic Writing」、「英語で学ぶ経済学」、「Fundamentals of Economic Analysis」及び「Applied Economics」などのジェネリック・スキル科目(語学力)は、海外留学を考える学生のための留学準備科目として位置づけられます。留学(海外短期研修を含む)を検討している学生は、できるだけ履修してください。なお、留学を予定していない学生の履修を妨げるものではありませんが、履修希望者が多い場合、抽選を行うことがあります。

履修者数制限

「経済データ分析I・II」「ビジネス英語I・II」
「時事英語I・II」「産業連関分析」

下表科目は履修者数に制限があるため、抽選となります。抽選にもれた場合は修正期間に科目の変更を行ってください。

	(春) 経済データ分析I (秋) 経済データ分析II	(春) ビジネス英語I (秋) ビジネス英語II	(春) 時事英語I (秋) 時事英語II	(秋) 産業連関 分析
履修者数 上 限	1科目あたり135名 ※45名×3クラス開講	1科目あたり30名		60名

※開講されるクラス数は変更となる場合があります。

経済学関連科目

経済学関連科目は学部固有科目一覧表に記載されている16科目です。

これらの科目は履修登録制限単位に含み、修得した単位は学部固有科目として卒業所要単位に算入されます。

他学部開講科目(経営学部・総合政策学部)

経済学部生は下記履修条件に従って経営学部・総合政策学部開講科目を履修することができます。

※全学開放科目とは異なりますので注意してください。

《履修条件》

1. 年度によっては履修できない場合があります。履修できる科目は学科目時間割表の別表に記載されます。
2. 2年生以降に履修できます。
3. 両学部合計24単位まで学部固有科目の選択単位として卒業所要単位に算入することができます。
4. 初回の授業で履修者を制限する場合があります。履修を希望する学生は必ず初回の授業に出席してください。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

海外語学研修

- ① 本学国際センター企画・主催の海外短期研修に参加・修了し、課題レポートを提出することにより学部固有科目単位として認定され、卒業所要単位に含まれます。(認定)
 - ② 履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含みません。
 - ③ 4年生においては夏期のみが評価の対象になります。
- 募集時期や参加方法等については国際センターで確認してください。

海外ビジネス英語研修 I

- ① 本学国際センター企画・主催の海外短期研修に参加・修了し、課題レポートを提出することにより学部固有科目として認定され、卒業所要単位に含まれます。(認定)
 - ② 履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含みません。
- 募集時期や参加方法等については国際センターで確認してください。

海外ビジネス英語研修 II

- ① 本学国際センター企画・主催の海外短期研修に参加・修了し、課題レポートを提出することにより学部固有科目として認定され、卒業所要単位に含まれます。(認定)
 - ② 履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含みません。
- 募集時期や参加方法等については国際センターで確認してください。

インターンシップI(国内インターンシップ)

- ① キャリア支援課が春学期に実施する各種ガイダンスに参加することが必要です。ガイダンスに参加して、インターンシップへの参加方法や必要な提出物など、単位認定に至るまでの一連の流れを詳細に確認してください。
- ② 必要条件を満たすと2単位が認定されます。(成績表では「N」と表記されます。)
- ③ 履修登録は不要です。履修登録制限単位には含みません。

インターンシップⅡ・Ⅲ(海外インターンシップ)

「インターンシップⅡ・Ⅲ」は一定以上の総合的な英語能力と相手先(企業)との調整などが必要となりますので必ず事前に国際センターで相談するようにしてください。

- ① この研修に参加・修了し、課題レポートを提出することにより学部固有科目として認定され、卒業所要単位に含まれます。(認定)
- ② 履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含みません。

海外留学科目

- ISEP加盟大学及び中京大学海外交流協定大学へ交換留学生として選抜派遣された学生ならびにセメスター留学で選抜派遣された学生が留学先大学で取得した単位については、原則として経済学部のカリキュラムにある科目に読み替えてこれを認定します。(認定)
- ① 上記読み替えができない科目の中で、経済学部が認めた科目については、学部固有科目「海外留学科目」として認定します。
 - ② 「海外留学科目」として認定できる単位の総数は16単位までとし、1単位、3単位などの分割認定も認めます。
 - ③ 履修登録は不要です。なお、履修登録制限単位には含みません。

イングリッシュ・スキル【2～4年生対象】

この科目は大学入学後に取得したTOEICのスコアを「イングリッシュ・スキル」として単位認定するものです。認定スコアの基準は下表のとおりです。

スコア基準	認定科目名	単位数
600	イングリッシュ・スキル(TOEIC600)	2単位
730	イングリッシュ・スキル(TOEIC730)	2単位

- ① 履修登録は不要です。また、履修登録制限単位には含みません。修得した単位は学部固有科目の選択単位として卒業所要単位に算入します。(認定)
 - ② 申請時に730以上のスコアを有する者は、「イングリッシュ・スキル(TOEIC600)」と「イングリッシュ・スキル(TOEIC730)」の合計4単位を同時に認定します。
 - ③ 単位認定申請期間は各学期の定期試験期間内です。単位認定までの流れは次のとおりです。
 - 1) 単位認定申請に関するお知らせをALBOで確認
 - 2) 提出書類：単位認定申請書 ※ALBOに添付します
TOEIC スコア公式認定証
(Official Score Certificate)の写し
 - 3) 認定結果は成績開示日以降にCUBICS で確認
 - ④ 認定申請の手続きは申込期間を必ず厳守してください。期間を過ぎたものはいかなる理由があっても一切受け付けられません。
- ※なお、認定機関の都合で公式認定証が当初予定されていた時期に発行されず、申請期間に間に合わない場合は、申請期間内にその旨を記載した理由書を単位認定書に添えて提出し、後日必ず公式認定書を提出してください。

履修相談会・履修アドバイス

経済学部では下記の通り「履修相談会・履修アドバイス」を実施しています。春学期開講前に、全学年「履修相談会」への参加が義務付けられており、成績不振者は、履修アドバイスを受けることも必要となります。経済学部教員が「履修相談シート」を用いてみなさんの単位修得状況や履修状況をチェックし、適切なアドバイスを行います。

■履修相談会

経済学部生は全員履修相談会に参加することが義務付けられています(なお、成績不振学生は履修アドバイスを受けること)。「履修相談シート」に単位修得状況や卒業後の進路の希望、興味のある履修モデル等を記入し、履修相談会に参加してください。実施日や「履修相談シート」の配布等についてはALBOでお知らせします。

学年	春学期	秋学期
1年	新入生ガイダンス期間(必須)	履修登録初日(希望者)
2年	4月初旬(必須)	
3年	演習Ⅱ【初回授業時】(必須) ※演習未履修者は履修登録初日(必須)	
4年	演習Ⅲ【初回授業時】(必須) ※演習未履修者は履修登録初日(必須)	

■履修アドバイス

単位の修得状況が著しく悪い場合、春・秋学期の開講前に履修アドバイスを実施します。履修アドバイスの対象とならないよう励んでください。対象者にはALBOでお知らせします。

<対象者の目安>

学年	セメスター	総修得単位数 ^{※1}	セメスター GPA ^{※2}	実施内容
1年	第1セメスター	14単位未満	または 1.0未満	経済学部教員との面談
	第2セメスター	30単位未満		
2年	第3セメスター	45単位未満		
	第4セメスター	61単位未満		
3年	第5セメスター	76単位未満		
	第6セメスター	91単位未満		
4年	第7セメスター	108単位未満		
	第8セメスター	124単位未満		

※1 総修得単位数は、履修登録制限単位数のおよそ7割を目安としている。

※2 セメスター GPAは、平均して「C」評価(合格最低ライン)を下回る場合(1.0未満)を対象としている。

★詳細はすべて事前にALBOでお知らせします。

オフィス・アワー

オフィス・アワーを利用して授業内容や学習に関する質問をはじめ、学生生活全般に関することを教員に相談できます。相談内容によっては、他の専門の先生や窓口を紹介する場合があります。

オフィス・アワーを活用する際は、シラバスで時間帯や事前連絡の有無、方法等を確認し、研究室を訪問してください。